

国際マイクロ統計データベース利用上の課題

(公財)統計情報研究開発センター客員上席研究員 古田 裕繁

はじめに 大学共同利用機関法人情報・システム研究機構と(公財)統計情報研究開発センターが共同で運営する『国際マイクロ統計データベース』は、現在8か国の世帯収支統計調査について、リサンプリングデータの編成とユーザーマニュアルの作成を行っている。しかも、3か国については2年次について、編成を行っており、時系列比較が可能となりつつある。これらの作業に当たって、各国統計局の協力は不可欠である。このため、毎年、国際ワークショップを開催し、3か国から職員を招聘して、意見交換、国際比較研究等を行っている。2016年度は、バングラデシュ、モンゴル、ベトナムを招聘した。各国調査の消費推計上の課題を紹介する。

ワークショップ

2016年12月、バングラデシュ、モンゴル、ベトナムを招聘した。最初に各国からデータセットの概要説明を行い、引き続き、事務局から予め渡しておいた質問事項について意見交換を行った(各1時間)。国際比較研究のトピックスは、これまで広い範囲から参加者が選択していたが、今年度は所得・消費に絞った。参加者は自国と対象国について、所得・消費の推計方法を探索・比較し、世帯レベルの所得・消費変数を作成し、比較を行うとともに、推計上の課題を抽出した。作業時間は休日を含めても3日程度しかなかったが、最終日にはそれぞれ比較研究の成果を発表した(各50分)。

バングラデシュ HIES 2010

IHSNでは世帯が世帯消費の変数を提供しているが、統計局からは提供されなかった。消費推計に含む項目に一部不明な点はあるが、補完計算の必要な項目は少ないので、ワークショップでの参加者の推計結果を考慮して、作成方法をマニュアルに明記し、試算値としてマイクロデータの整備を行った。変数リストはあるが、コードブックは提供されなかった。しかし、データファイルの構造が調査票と同じであり、変数名のネーミング・ルールが明確であるので、調査票で代用可能であった。

モンゴル HSES 2010

当初英文調査票がなかったが、統計局に要請して提供してもらった。コードブックもなかったが、提供されたSTATAデータファイルに含まれる各種属性情報から抽出して作成した。世帯消費の変数は提供ファイルには含まれていない。帰属家賃のヘドニック分析による評価、耐久財の減価償却分の評価は、統計局の公表推計値には含まれないことがワークショップで確認できた。現物評価のために、現物取引のみの世帯の単価を補完推計するためのシステムを開発したが、手法による不確実さが伴うので、マニュアルに作成方法を明記して、試算値としてマイクロデータの整備を行った。

ベトナム VHLSS 2010

VHLSS2010の編成は、VHLSS2006に次いで2回目であった。VHLSS 2002-2010は1999年人口センサスをマスターサンプルとしているので、同一設計思想であった。なお、サンプル数は2010年で拡大された。コードブックがなかったが、ワークショップ参加者の協力で作成できた。提供された消費の個票レベルのデータと、サマリーファイルの世帯レベルの消費総額との整合性について検証・確認ができたので、統計局作成データとして、マイクロデータの整備を行った。

まとめ

このワークショップは、リサンプリングデータの編成とユーザーマニュアルの作成にあたって、非常に有効であった。